

《心じょうをとらえる》

登場人物の気持ちや様子をきいている問題に答えるときは、次のようなじゅん番で考えます。

(1) まず本文を読み、問いの文とアエの文を読みます。

(2) アエの文が、本文中のどこに書かれているかをさがします。

(3) アエの文に書かれている気持ちや様子と、本文中の行動や気持ちが同じかどうかをかくにんします。

【例題】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

いくえはお母さんと夕食の買い物のためにスーパーマーケットへ来ました。

「夜ごはんは何？」

いくえはお母さんにききました。

「今日はね、いくえの大すきなハンバーグだよ。」

「やったあ。」

いくえは、とびはねながらよろこびました。すると、お母さんがこう言いました。

「帰ったら、いくえもハンバーグを作るのを手つだってね。」

「うん。」

いくえは大きな声でうなずきました。

(問) —線部「とびはねながらよろこびました」とありますが、このときのいくえの気持ちにあてはまるものを、あとのアエの中からえらぼう。

ア 夕食が大すきなハンバーグなので、悲しい気持ち。
イ 夕食がきらいなハンバーグなので、うれしい気持ち。
ウ 夕食が大すきなハンバーグなので、うれしい気持ち。
エ 夕食が大すきなハンバーグではないので、悲しい気持ち。

【答え】 ウ

【かいせつ】

アエに書かれている気持ちと、本文中に書かれている気持ちや様子が同じかどうか、かくにんします。アは、「今日はね、いくえの大すきなハンバーグだよ。」と言われて、いくえが「やったあ。」とよろこんでいるので「悲しい気持ち」はまちがいです。イは、お母さんが「いくえの大すきなハンバーグ」と言っているので「きらいなハンバーグ」はまちがいになります。ウは、夕食はハンバーグと言われて、いくえが「やったあ」とよろこんでいるので答えになります。エは、夕食はハンバーグなので「ハンバーグではない」はまちがいになります。

【練習しよう】

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

公園で、たかしとひろきとゆうきとりゅうの四人が、かくれんぼをしていました。おには、ゆうきです。たかしは、大きな木のうらにかくれました。

「もう、いいかい。」

「もう、いいよ。」

おになったゆうきが、みんなをさがし始めました。ザッザッザッ。近くで人の足音が聞こえました。どうか見つかりませんように。たかしはドキドキきんちようしながら、じっとかくれていました。

「ここにもいない。みんなどこにかくれているんだよ。」

そう言いながら立ち去っていくゆうきに、たかしはほっと一安心しました。

(問) —線部「ほっと一安心しました」とありますが、このときのとかしは、あとのア～エの中からえらぼう。

- ア ゆうきに見つからなくてよかったと思っている。
イ ゆうきに見つかったので、ざんねんに思っている。
ウ ゆうきが見つめてくれないので、悲しく思っている。
エ ゆうきが見つからないのでよかったと思っている。

ア 答え

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

ああ、また始まった。①カナは耳をふさぎたくなった。

さとするが生まれ、カナが「お姉ちゃん」になってから、お母さんはいつもこればかり言う。ほしいものがあっても、

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

さとするにカナのおやつを食べられてしまっても、

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

と言う。カナは、お母さんがそう言うたびに、すきでお姉ちゃんになったわけじゃないのに、と心の中でつぶやいていた。何でもかんでも「お姉ちゃん」の一言でかたづけられるのがいやだった。

でも、今日はもうがまんできない。カナはなきそうになりながら、教科書を見つめた。教科書を開くと、赤いクレヨンでぐちゃぐちゃにぬりたくられていた。これは、きのう学校で配られたばかりだ。なのに、③教科書はもう一年も使ったみたいに、あちこちに絵や線が書いてある。みんながぴかぴかの教科書を持っていくのに、自分だけこんな教科書なんてと思うと、カナは悲しくなった。しかし、そんなときでもお母さんは、

「お姉ちゃんでしょう。」

と言う。さすがにがまんできなくなったカナは、

「さとするなんていらない。④お姉ちゃんになんてなりたくなかった。」

とさけんで、部屋にとじこもった。

カナはベッドの上でタオルを頭からかぶり、じつとうずくまっていた。

「カナお姉ちゃん。」

すぐそばで、えんりよがちによぶさとするの音が聞こえた。カナを気にして、部屋に入ってきたのだろう。でも、口を開いたらさとするに何を言ってしまうかわからない。カナはタオルをさらに深くかぶって⑤聞こえないふりをした。

(一) — ①線部「カナは耳をふさぎたくなった」とありますが、それはなぜですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア お母さんの声が大きくうるさかったから。

イ 「お姉ちゃんでしょう」という言葉を聞いたくないから。

ウ 弟の大きな声が聞こえるから。

エ 「お姉ちゃん」になったのがうれしいから。



(2)―②線部「心の中でつぶやいていた」とありますが、このときのカナの様子ようすにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 悲しくて口に出して言えない様子。

イ うれしさを一人だけで味あじわっている様子。

ウ ふゆかいだけれど、口には出さない様子。

エ くやしさのあまり口に出せない様子。

☐

(3)―③線部「教科書はもう〽書いてある」とありますが、なぜですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 教科書を一年間使ったから。

イ さとるが教科書に落書らくきをしたから。

ウ カナが教科書に落書きをしたから。

エ 古い教科書だったから。

☐

(4)―④線部「お姉ちゃんになんてなりたくなかった」とありますが、それはなぜですか。このときのカナの気持ちもにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 自分だけがまんしなればいけず、くやしい気持ち。

イ 本当は自分が妹になりたくて悲しい気持ち。

ウ おとなになることがいやでふゆかいに思う気持ち。

エ 「お姉ちゃん」になれたことがうれしい気持ち。

☐

(5)―⑤線部「聞こえないふりをした」のはなぜですか。このときのカナの気持ちにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 弟のことがきらいで、声も聞きたくなかったから。

イ 弟のことがきらいなので、こまらせようと思ったから。

ウ 今、弟と話したら、弟をきずつけてしまうと思ったから。

エ 弟に、自分があることがばれないようにしたかったから。

☐

次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

公園の鉄ぼうをぎゅっとにぎりしめ、たかしは深く息をすった。ドキドキうるさい心ぞうを落ち着かせるためだ。

「いっせーの……せつ。」

たかしは思いっきり地面をけりあげた。体がいっしゅんういて、すぐに落ちてしまう。

「まただめかあ。」

たかしはため息をつきながら、鉄ぼうをにぎる手をじっと見つめた。

きのうの体育は鉄ぼうだった。しかし、クラスでさか上がりができないのは、たかし一人だけだった。

「練習すればきつとできるようになる。」

先生になぐさめられたが、たかしはくちびるをかみしめていた。みんなは、くるくる、まるで風車のようだ。それがうらやましくて、たかしはさっそく、さか上がりの練習を始めたのだ。でも、なかなかうまくいかない。足をいくらけりあげても、鉄ぼうまで体がとどかない。風車というより、木から落ちかけているコアラみたいだ。手は何度も鉄ぼうをにぎったせいで真っ赤になっていて、血が出ているようだった。もう一度ため息をついたとき、後ろからかたをたたかれた。ふり向くと、お父さんがわらっていた。

「もう夕ごはんの時間だからむかえに来たよ。」

「さか上がりができるようになるまでは、家に帰りたくない。」

そう言うと、お父さんはたかしの後ろに立って、

「もう一度やってごらん。」

と言った。たかしは、もう一度鉄ぼうをにぎって、いきおいよく地面をけた。また鉄ぼうにとどかない。そのとき、たかしの落ちかけた足を、お父さんがつかんで引っぱり上げた。そのいきおいで、たかしの体は鉄ぼうを中心に一回転した。

まわりのけしきが、ジェットコースターに乗ったようにぐるりと回った。

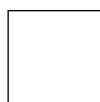
(一) — ①線部「たかしは深く息をすった」とありますが、このときのたかしの様子にあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア さか上がりの練習で、きんちようしている。

イ 前まわりの練習で、きんちようしている。

ウ 前まわりができたので、うれしくなっている。

エ さか上がりができなかったので、悲しくなっている。



(2) —②線部「たかしはため息をつきながら」とありますが、これは何を表していますか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア さか上がりができたこと。

イ さか上がりができなかったこと。

ウ 練習をしなくなったこと。

エ 練習をしなくなったこと。

☐

(3) —③線部「たかしはくちびるをかみしめていた」とありますが、このときのたかしの気持ち^もを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア うれしい イ ふゆかい

ウ くやしい エ 楽しい

☐

(4) —④線部「まるで風車のようだ」とありますが、なぜそう見えたのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア みんながさか上がりをして、風車のかわりになっているから。

イ みんながさか上がりをする様子が、風車のように見えるから。

ウ みんなが風にふかれて、風車のように見えるから。
エ みんなの回る様子が目にも見えない速^{はや}さだったから。

☐

(5) —⑤線部「まわりのけしきが、ジェットコースターに乗ったようにぐるりと回った」とありますが、これはどういうことですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア ジェットコースターと同じ速さで回った。

イ ジェットコースターに乗った。

ウ 気分が悪くなつてけしきが、ぐるりと回って見えた。

エ さか上がりができたときに見たけしきが、そう見えた。

☐



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

① ああ、また始まった。カナは、耳をふさぎたくなかった。さとするが生まれ、カナが「お姉ちゃん」になってから、お母さんはいつもこればかりだ。ほしいものがあっても、

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

さとするがカナのおやつを食べてしまっても、

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

と言う。カナは、お母さんがそう言うたびに、すきでお姉ちゃんになったわけじゃないのに、と心の中でつぶやいていた。

でも、今日はもうがまんでできない。カナはなきそうにな

りながら、教科書を見つめた。教科書は、さとするの赤いクレヨンで、ぐちゃぐちゃにぬりたくられていた。この教科書は、学校できのう配られたばかりだ。なのに、教科書はもう一年も使ったみたい、あちこちに絵や線が書いてある。それなのにお母さんは、

「がまんしなさい。お姉ちゃんでしょう。」

と言いだした。

「さとするなんていらない。オネエちゃんになんてなりたくなかった。」

がまんのげん界だったカナは、自分の部屋にとびこんだ。

「カナお姉ちゃん。」

③ すぐ近くで、元気のないさとするの声が聞こえる。カナを気にして、部屋に入ってきたのだろう。でも、口を開いたら

さとするに何を言ってしまうかわからない。カナは、ふとんの中にもぐりこんで聞こえないふりをした。

すると、さとするがふとんの中に何かをおしこんできた。暗いふとんの中で目をこらすと、それはさとするが一番大切にしているロボットの人形だった。⑤ ふだんはさわらせてもくれないのに。そう思うと、イライラが少しずつ消えていくようだった。

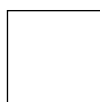
① ―①線部「ああ、また始まった」とありますが、なぜカナはそう思っているのですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア いつも同じことを言うお母さんの言葉を聞いて、楽しんでるから。

イ お母さんの言葉を聞いて、おどろいているから。

ウ いつも同じことを言うお母さんの言葉にうんざりしているから。

エ いつもと同じことを言われたので、ほっとしているから。





(2) —②線部「カナはなきそうになりながら、教科書を見つめた」とありますが、このときのカナの気持ち^もを、あとのア〜エの中からえらぼう。

ア 自分だけ古い教科書なので、はずかしく思っている。
イ 新しい教科書をよこされてしまったので、悲^{かな}しく思っている。

ウ 教科書がなくなってしまったので、こまっている。
エ 教科書の落書き^{らく}きを、楽しく思っている。

(3) —③線部「元氣のないさとの声が聞こえた」とありますが、このときのさとの様子^{ようす}にあてはまるものを、あとのア〜エの中からえらぼう。

ア カナの教科書に絵や線を書いたのを悪い^{わる}と思っ
ている。

イ お母さんにしかられたので悲しくなっている。
ウ カナをこまらせてよろこんでいる。
エ 体の具合^ぐが悪くて元氣がなくなっている。

☐☐

(4) —④線部「目をこらす」とありますが、このときのカナの様子にあてはまるものを、あとのア〜エの中からえら
ぼう。

ア 目をして何も見ないようにする様子。
イ ちらりと目を少しだけやる様子。

ウ 何度^どかくり返^{かえ}して見る様子。
エ じつとたしかめるように見つめる様子。

(5) —⑤線部「ふだんはさわらせてもくれないのに」とあり
ますが、これは何を表^{あらわ}しているのですか。あてはまるも
のを、あとのア〜エの中からえらぼう。

ア さとるが、ふだんはさわらないほど人形を大切に
していない。

イ さとるは人形をいつもさわっていないが、大切に
している。

ウ さとるは、人にさわらせないほど人形を大切にし
ている。

エ さとるは、人にさわらせないほど人形を大切にし
ていない。

☐☐



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

公園の鉄ぼうをぎゅつとにぎりしめ、たかしは深く息をすった。

「いっせーの……せつ。」

たかしはいきおいよく地面をけりあげた。体が少しだけういて、すぐに落ちてしまう。

①「まただめかあ。」

たかしはため息をつきながら、鉄ぼうをにぎる手をじっと見つめた。

きのうの体育は鉄ぼうだった。しかし、三十人のクラスで、さか上がりができないのは、たかししかいなかった。

落ちこむたかしに、

②「練習すればきつとできるようになる。」

と先生がなぐさめてくれたが、たかしはくちびるをかみしめた。

みんなが、くると風車のように回る。それがうらやましくて、たかしはさっそく、さか上がりの練習を始めたのだ。

でも、なかなかうまくいかなかった。足をいくらけりあげても、鉄ぼうまで体がとどかず、鉄ぼうにぶらさがってしまう。風車というより、木から落ちかけているコアラみたいだ。③何度もさか上にチャレンジした手のひらは、もう真っ赤になっていて、④じんじんと手のひらがいたくて、たかしは思わずため息をついた。

⑤「もうちょっとでできるのに。」

そうつぶやいたとき、後ろからかたをたたかれた。ふり向くと、お父さんがわらっていた。

「もう夕ごはんの時間だから、むかえに来たよ。」

「さか上がりができるようになるまでは、家に帰りたくない。」

そう言うとき、お父さんはたかしの後ろに立って、

「もう一度やってごらん。」

と言った。もう一度、鉄ぼうをにぎって、いきおいよく地面をけた。また鉄ぼうにとどかずに、足が地面に落ちていく。そのとき、たかしの落ちかけた足をお父さんがつかんで引っぱり上げた。そのいきおいでたかしはぐるりと回った。まわりのけしきが、ジェットコースターに乗ったように、ぐるりと一回転した。

①——①線部「まただめかあ」とありますが、このときのたかしの気持ちにあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア さか上がりができたので、うれしく思っている。

イ さか上がりがなかなかできないので、がっかりしている。

ウ さか上がりはもうやりたくない、といやがっている。
エ さか上がりより前回りの方が好きだ、と思っている。





(2) — ②線部「先生がなぐさめてくれた」とありますが、それはなぜですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア たかしに、何が何でもさか上がりをやらせようと思っただから。

イ さか上がりができないたかしを、元気づけようとしたから。

ウ さか上がりができないたかしを、はずかしいと思っただから。

エ たかしにさか上がりをしなくてもいい、と言おうとしたから。

(3) — ③線部「木から落ちかけているコアラ」とありますが、それはここではどんな様子ようすを表あらわしていますか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア たかしが木から落ちかけている。

イ コアラが鉄ぼうから落ちかけている。

ウ たかしが鉄ぼうから落ちかけている。

エ コアラが木から落ちかけている。

(4) — ④線部「手のひらは、もう真っ赤になっている」とありますが、どういうことですか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 鉄ぼうに赤いペンキがぬってあった。

イ 何度もさか上がりをして、回りすぎて手が赤くなった。

ウ 夕日がさしてきて手のひらが赤くなった。

エ 何度もさか上がりをしようとしたので、手が赤くなった。

(5) — ⑤線部「もうちよつとでできるのに」とありますが、このときのたかしの気持ちきもちを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア さか上がりができないので、くやしい気持ち。

イ さか上がりができないので、はずかしい気持ち。

ウ さか上がりができるので、楽しいかな気持ち。

エ さか上がりができるので、悲しいかな気持ち。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「家のかぎがない。」

えりこがそのことに気づいたのは、弟といっしょに家の前まで来たときだった。あわててあちこちのポケットをさがすが、全く見つからない。えりこはいっしょうけんめい、今日一日のことを思い出した。

今日は学校が終わったあと、弟と水泳教室に行った。きつとそのときに、ロッカーの中にかぎをわすれてきてしまったのだ。どうしよう。今日はお父さんもお母さんも仕事でおそい。今は真冬だから、二人が帰ってくるまで外で待っていたらかぜをひくだろう。えりこは、お母さんの仕事場に行っにかぎをもらってくるしかないと思った。お母さんがいるのは、家から十五分ほどはなれた花屋だ。

「お母さんに会えばだいじょうぶだよ。行こう。」

えりこはわざと大きな声を出して、なきだしそうな弟の手をにぎると、元気よく歩き出した。学校へ行くとき、いつも花屋の前を通っている。いつもとかわらない同じ道だ。それなのに、夜の道は昼間と全くちがうように感じる。暗がりの中に真っ黒いかたまりが見えた。テレビ番組で見たトラみたい、こちらにおそいかかってきそう。びくびくしながら近よると、トラに見えたそれは、ただの大きなバイクだった。えりこは、ぐずぐずとなきだす弟の手をぎゅっとにぎりしめた。わたしはお姉ちゃんだから、こんなことくらいでなくものか。二人はおたがいを力づけるように、いたくなるくらい手をにぎって夜の道を歩いた。

やがて、道の先の方に、店の明かりが見えてきた。お母さんは店に入ってきた二人を見たとき、目を丸くして、「どうしてこんなところにいるの。」

と声をかけてきた。今までなみだをこらえていたえりこは、お母さんの声を聞いたとき、目からなみだがこぼれ落ちた。

（一）――①線部「あわててあちこちのポケットをさがす」とありますが、このときのえりこの様子にあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア かぎをわすれてきてしまった悲しい様子。
イ かぎがどこかにあるのでは、とあせっている様子。
ウ かぎがだれかにぬすまれた、とおびえている様子。
エ かぎをさがすことを、楽しんでいる様子。

（二）――②線部「わざと大きな声を出して」とありますが、なぜえりこはそうしたのですか。あとのア～エの中からえらぼう。

ア 大きな声を出せば、かぎが出てくるのではと思ったから。
イ しずかなところで大きな声を出してみたかったから。
ウ 弟を安心させて元気づけようと思ったから。
エ 弟がなきだすのがうるさかったから。



(3)―③線部「びくびくしながら」とありますが、このとき
のえりこの気持ちを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア うれしい イ 悲しい
ウ 苦しい エ こわい

(4)―④線部「目を丸くした」とありますが、それはなぜで
すか。あてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア 家にいるはずの二人が、花屋まで来たから。
イ 二人が家に帰らず、遊^{あそ}んでいたから。
ウ 二人がけんかをしていて、なきだしていたから。
エ えりこだけが花屋に来たから。

(5)―⑤線部「なみだをこらえていた」とありますが、えり
この様子にあてはまるものを、あとのア～エの中からえ
らぼう。

ア 弟とけんかをしたが、なくのがいやでこらえていた。
イ 弟を心配^{ばい}させまいと、自分もなきたいのをこらえ
ていた。

ウ お母さんにおこられるのがこわくて、なみだをこ
らえていた。

エ お母さんを心配させまいと、自分もなきたいのを
こらえていた。



次の文章を読んで、あとの問いに答えよう。

「家のかぎがない。」

みゆきがそのことに気づいたのは、弟といっしょに家の前まで来てからだ。あわててあちこちのポケットをさがすが、全く見つからない。みゆきはいっしょうけんめい、今日一日のことを思い出した。

今日は学校が終わったあと、弟と水泳教室に行った。そのときに、ロッカーの中にかぎをわすれてきてしまったのだ。どうしよう。今日はお父さんもお母さんも仕事で忙しい。今は真冬だから、二人が帰ってくるまで外で待っていたらかぜをひくだろう。こうなったら、お母さんの仕事場に行つて、かぎをもらってくるしかない。とみゆきは考えた。お母さんがいるのは、家から十五分ほどはなれた花屋だ。

「お母さんに会えばだいじょうぶだよ。行こう。」

みゆきはわざと大きな声を出すと、なきだしそうな弟の手をひっぱって歩き出した。花屋までの道は、学校の行き帰りによく使っている。いつもとかわらない同じ道だ。それなのに夜の道は、昼間とは全くちがう感じがした。暗がりの中に真っ黒なカタマリが見えた。テレビで見たトラミタいに、こちらにおそいかかってきそうで、二人は体を小さくした。びくびくしながら近よると、トラに見えたそれは、ただの大きなバイクだった。みゆきは、ぐずぐずとなきだす弟の手をぎゅっとにぎりしめた。わたしはお姉ちゃんだから、こんなことくらいでなくものか。二人はおたがいを力づけるように、いたくなるくらい強く手をにぎって、夜

の道を歩いた。

やがて、道の先の方に、花屋の明かりが見えてきた。お母さんは店に入ってきた二人を見た。とたん目^④を丸くして、「どうしてこんなところにいるの。」

と声をかけてきた。これまでお姉ちゃんだから、となみだをこらえていたみゆきは、お母さんの声を聞いたとたん、目からなみだがこぼれ落ちた。

(一) — ①線部「いっしょうけんめい、今日のことを思い出した」とありますが、このときのみゆきの様子^{ようす}にあてはまるものを、あとのア～エの中からえらぼう。

ア どこにかぎをわすれてきたかを思い出そうとあせっている。

イ 今日あった楽しいことを思い出しうれしくなっている。

ウ 今日あったことを思い出し、悲しくなっている。

エ だれにかぎをかけたのか思い出そうとあせっている。





(2) — ②線部「夜の道は、昼間とは全くちがう感じがした」とありますが、このときの二人の気持ち^もを、あとのアゝエの中からえらぼう。

ア 昼間とちがう道を通るので、こわがっている。

イ 昼間と同じ道だが、トラが出るのでこわがっている。

ウ 昼間とちがって真っ暗なので、こわがっている。

エ 昼間と道の形がちがっているので、こわがっている。

(3) — ③線部「真っ黒なかたまり」とありますが、それは何ですか。あとのアゝエの中からえらぼう。

ア トラ イ 花屋

ウ ライオン エ 大きなバイク

(4) — ④線部「目を丸くして」とありますが、このときのお母さんの気持ちにあてはまるものを、あとのアゝエの中からえらぼう。

ア うれしい イ ふゆかい

ウ 悲しい エ おどろき

(5) — ⑤線部「お母さんの声を聞いたとたん、目からみだがこぼれ落ちた」とありますが、このときのみゆきの気持ちにあてはまるものを、あとのアゝエの中からえらぼう。

ア お母さんにおこられてかなしくなった。

イ お母さんに話しかけられて安心^{あん}した。

ウ お母さんにしかられるのがこわくなった。

エ お母さんの声が大きくておどろいた。